<table>
<tr><td colspan="3">団体名</td><td>子育て支援グループ「おたすけママ」（佐賀県佐賀市）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">団体の概要</td><td colspan="2">活動開始年</td><td>西暦　1998 年　6 月　活動開始</td></tr>
<tr><td rowspan="2">メンバー</td><td>人数</td><td>＜役員数＞　　14 名
＜ボランティア数＞　91 名</td></tr>
<tr><td>構成</td><td>親業インストラクター、保育士、主婦など</td></tr>
<tr><td colspan="2">予算規模</td><td>平成１３年度概算
・収入　\316,961（託児料、会員より徴収する保険料等）
・支出　\193,847（事務所借用料、ボランティア保険等）</td></tr>
<tr><td colspan="3">団体の目的</td><td>子どもの健全育成への支援
より良い男女共同参画社会を目指し、仕事と育児の両立を支援
女性の社会参加の支援</td></tr>
</table>

①活動の概要

・行政のイベント開催時の依頼託児
・ベビーシッター
・学童保育指導員
・イベント、講演会等への出張託児
・保護者からの依頼託児
・地域の公民館での子育てサロン
・公共施設での子育てサロン　　など

②組織運営の概要

組織体制は代表１名、副代表２名、会計１名、運営委員若干名、監事２名からなり、選出は総会時に決定する。任期は１年で再任は妨げない。

毎年１回行政主催の「保育ボランティア養成講座」の修了生の中から、「おたすけママ」への登録希望者を募っている。子どもの命を預かるので、例え保育の経験や子育ての経験が豊富であっても、新たに子どもの精神、身体、発達等の学習をして、付随する課題も併せて共通理解できることを基礎にメンバー募集をしている。

③元気に活動している要因

＜要因１：自ら人材養成の講座を運営している。＞

元々、「おたすけママ」は佐賀市保育ボランティア養成講座の第一期生の修了生の有志が

結成した。その後、「おたすけママ」が市から委託を受けて、同講座を企画、運営するようになった。

15 年度は「エンゼルさぽーとステップアップ講座」として開講した。企画、運営については実行委員をつくって、何回も会議を開いて進めた。講師には「おたすけママ」のメンバーの他、大学教授、保育所、医師、市町村の担当者などが従事した。

＜要因２：リーダーの交代に成功＞

平成 14 年 9 月に代表が交代した。前代表は平成９年から「おたすけママ」を設立して、６年目になっていた。代表が変わらず、そのまま続けることは無難であり、安心ではあるが、変化がない。改革の風を吹かせようと前代表は考えた。

しかし、ボランティアをしている人は、意外と１つだけではなく、他にいろいろな活動をしている人が多い。家庭の事情等で動けない人もいる。そういう意味では、「おたすけママ」のメンバーも忙しい人ばかりで、いざこの人に託そうと思ってもなかなか折り合いが付かなかった。

現在も前代表が営業、会議、報告会などあらゆる場面において新しい代表・副代表をサポートしている。代表を育てることは、上から教え、導くことではなく、一緒に関わり合いながら歩いていくことである。

＜要因３：メンバーにリーダー経験を持たせる＞

各部門（依頼先）のチーフを決め、コーディネーターなどの責任を持ってもらう。

誰もが責任のあるスタッフであるために、出張託児の「班長」を必ず経験してもらう。

代表にしろ、班長、チーフ、リーダー等、人を引っ張る役につくことで、喜び、楽しさ、嬉しさまた哀しみ、辛さ、大変さが初めて分かる。従って「おたすけママ」では、班長、リーダー、チーフ等人を引っ張る役を出来るだけ、全員の人にやってもらう。そうすることで、リーダーの大変さがよく分かる。遅刻をした人がリーダーや班長になって初めて遅れないようになったとか、荷物を搬入搬出するときに協力的だとか、変化が出てくる。

これからも全員が何でも出来る力を備え、リーダーシップを発揮出来る人材を育てていきたいと思っている。

＜要因４：緊密な話し合い＞

毎月１回の定例会がある。（気付き、課題についてよく話し合う）

代表を交え、定例会の前に運営委員会を開く。

また、スタッフ同士が仲が良い。（人間関係がうまくいっている）

＜要因５：活動拠点を持っている＞

活動拠点を佐賀市の市民活動センターに置いている。

＜要因６：他のＮＰＯや行政との連携＞

他のＮＰＯ団体との連携で活動場所が広がっている。

また、前述のとおり、行政より家庭教育講座の委託を受けて、託児、講座、イベント「エンゼルフェスタ」等の企画、運営をした。

④今後の課題と展望

事務所、荷物置き場に使用している現在のブースでは狭いので、全員の交流かつ託児が出来る場所が必要。

１年後にＮＰＯ法人の取得を目標に現在、学習中である。また、今の状況をコミュニティビジネスに展開していきたい。

公的な資金援助、補助金などの金融支援が欲しい。ビジネスのノウハウや事業の立ち上げサポートについて行政からの支援を要望している。

（団体前代表によるレポート、団体資料より作成）

＜この事例のポイント＞

市主催の「保育ボランティア養成講座」修了生（一期生）が立ち上げた団体である。同講座は現在も継続しており、講座修了生が本団体の人材供給源となっている。また、現在では、「おたすけママ」が講座の運営を市から受託して実施しており、ボランティア団体が自ら人材供給のための活動を行っていることになる。新たなボランティアを獲得する手段を持っていることは、活動継続のための一つのポイントである。

また、活動のリーダー役を多くの人に担ってもらうことで、会員がみな、リーダーの大変さを認識し、責任感ある活動を行うようになっている。団体代表についても、前代表が新代表をサポートしながら育成に努めている。ボランティア活動を通じて人材育成を行っており、それがボランティア活動の継続を可能にしていると言える。

人材育成について、このように団体内で努力していくことも必要だが、団体内の努力だけでこれを成功させるのは難しい。ボランティア団体のリーダーに対して、人材育成の重要性を助言したり、適切な講座を紹介するなどの支援方策を、適宜検討してくことが求められる。